



『野口雨情詩碑』（佐世保市）

野口雨情は、明治十五年、茨城県生まれの詩人。本名英吉。東京専門学校卒業。坪内逍遙に師事した。「シャボン玉」「七つの子」「赤い靴」などたくさん童謡を作り、北原白秋、西條八十と並んで三大童謡作詞者と呼ばれた。

雨情は、昭和二年四月、長崎南座で開催された長崎童謡研究会主催の講演と演奏会に出演するため、作曲家の中山晋平、歌手の佐藤千夜子と共に来崎した。この時、佐世保へも足を運び、弓張岳頂上からの景観を山の名前にちなんで表現したのが次の碑文であろう。

弓張岳は 弦なし 弓なし
ただ空 見てる 梯子を かけて
お天道 さんに 矢と弦 もらへ

雨情は、「佐世保小唄」「佐世保メロデー」や市内の学校の校歌等も作詞した。

碑は、昭和四十年に佐世保市によって建立された。